

# 南・緑ブロック学習会

平成 30 年 11 月 6 日



みなみ先生  
採用 4 年目  
若手世代

第 3 回南緑ブロック学習会が南区南養護学校分校で行われました。

南養護学校分校（小学部）は宝小学校と共有している施設があります。そこで①分校と宝小学校との共有部分の施設見学②宝小学校と南養護学校分校の交流の様子③交流及び共同学習についての情報共有の 3 部構成で学習会を行いました。



みどり先生  
採用 8 年目  
ミドル世代

## 1 南養護学校分校、宝小学校の施設見学



南養護学校分校（小学部）は、平成 27 年度に南区宝小学校の敷地内に移転したのですよね。

名古屋市で唯一、小学校と特別支援学校の児童が同じ敷地内で共に学ぶ学校として、両校は様々な合同行事を積極的に行っています。



【施設見学の様子】

南養護学校分校の教室は、子どもたちの特性に応じて、様々な工夫がありました。場所の構造化やスケジュールなどの具体的な視覚支援、掲示物の工夫など参考になるものがたくさんありました。

宝小学校と南養護学校分校の施設がつながっているのも、まさしく一つの建物に学校が二つあるという状況です。

教室や共有で使用する施設などを紹介していただきながら見学をさせていただきました。

この渡り廊下から西側（←）が宝小学校で、東側（→）に渡ると南養護学校の教室ね。境目には扉も仕切りもないのですね。



【宝小学校】



【南養護学校分校】

## 2 研究発表「共生社会の形成につながる実践」宝小学校特別支援学級担任：辻昇吾先生

宝小学校の「たか」と南養護学校の「みな」という頭文字をとって「たかみな」という名称を用いて学校間で様々な交流活動を行っています。

具体的には、児童による「たかみな交流会」や互いの学芸会や作品展などを参観し合うなどの交流があります。

名古屋市で唯一の実践がここにはあるのですね。

宝小学校の子どもたち2年生、4年生がそれぞれ南養護学校分校の低学年、高学年の子どもたちと共に年間を通して同じペアで活動を行っている「たかみな交流会」という活動があります。



宝小学校 特別支援学級担任の辻昇吾先生から4年生の実践を中心にお話をいただきました。

4年生は、総合的な学習の時間の授業を通して、ペアの南養護学校分校の友達と一緒に活動するゲームや遊びの内容を考えて取り組みます。「6月には第1回目の交流会がありました、なかなかうまく子どもたち同士が関わるができなかったり、お互いの様子が分からなかったりして戸惑う姿が見られました」と辻先生。

そこで、交流するペアグループの友達の好きなことや苦手なことなどを南養護学校分校の担任の



発表の様子

先生にインタビューすることで、日頃の生活や学習場面の様子や関わり方などを知りました。

そして、再度交流会の内容を企画します。1月の「たかみな交流会」では、お互いに少しずつ歩み寄り、一緒にゲームを楽しんだり、関わり合ったりする姿が見られるようになりました。

### 3 交流及び共同学習について（情報共有）



みどり先生、「交流及び共同学習」って通常の学級に行くことが目的ですか？

『障害のある子どもと障害のない子どもと一緒に参加する活動は、相互の触れ合いを通じて豊かな人間性をはぐくむことを目的とする**交流**の側面と、教科等のねらいの達成を目的とする**共同学習**の側面があるもの』として考えられるのよ。「交流及び共同学習」はこの**両方**の側面が一体としてあることを明確に表したもののなの。

だから、特別支援学級の子どもたちが通常の学級に行くこと自体が目的ではなくて、「お互いにとって学びがあるもの」と考えられるわね。



各校の交流及び共同学習を発表してくださった先生方からも「全校の子どもたちに知ってほしい」「お互いの子どもたちにとって分かりやすい授業をしたい」などという願いのあるすてきな取り組みがありましたね。



障害のある子どもたちは自立や社会参加に向けて学ぶとともに、様々な人と共に助け合い支え合って生きていくことを学ぶ機会であり、それが共生社会につながっていくのね。

同じように教員同士も共に学び合っていく関係を築いていくことが大切です。



☆次回開催予定☆12月3日（月）18：30～熱田区南養護学校本校

「子どもの理解を深める ～先生、聞いてください～」

- 合理的配慮について【南養護本校：高柳俊児先生】
- 事例検討会【桶狭間小学校：加藤友希先生】

参考：文部科学省HP「よりよい交流及び共同学習を進めるために」

文責：鉄井史人 イラスト：安藤英吾